

令5年度 学校マネジメントシート

学校名 (松阪あゆみ特別支援学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自立と共生 ～地域で豊かに生きる子どもを育てます～
(2)	育みたい 児童生徒像	4 H (児童生徒の力) <ul style="list-style-type: none"> ・HEALTH (すこやかな体) ・HEAD (まなびいかす力) ・HEART (おもいやる心) ・HOPE (ゆたかな希望)
	ありたい 教職員像	4 W (教職員の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・HEARTWORK (心に寄り添う指導) ・TEAMWORK (確かな協働) ・FOOTWORK (率先した行動) ・NETWORK (地域との連携)

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><児童生徒> 学校卒業後の社会参加に必要な力を育む教育の提供</p> <p><保護者> 一人一人の障がい理解と確かな教育の展開、社会に対する障がい者理解につながる様々な啓発活動</p> <p><関係機関・地域> 関係会議への積極的な参加や進路等に関する情報提供をする中での強固な連携、様々な活動の報告や物品販売、学校開放等の機会を通じて地域への理解を図る</p> <p><各学校等> 松阪市・多気郡地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> 子どもの自己実現をめざすうえでの一番の理解者としての相談相手や支援協力者であってほしい</p> <p><各関係機関> この地域の特別支援教育全般の牽引的役割を果たしてほしい</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 情報共有を密にし、共通理解したうえで「個別の教育計画・指導計画」を共に作成し子どもの成長につなげていくことへの理解と協力を求める</p> <p><各関係機関> 子どもにとってより良い環境を確立するため強固な連携関係を築きたい</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で児童生徒が豊かに生きる支援のあり方として、トコトコネットワークの取組は大変有効的であるが、加入者が少ない点が課題である。 ・教員が問題をひとりで抱え込まない環境作りが重要である。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が同時に授業を実施しているため、お互いの授業を参観する形態の研修を実施することは困難である。引き続き、授業改善につながる効果的な研修のあり方を検討していく必要がある。 ・児童生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、起こりうる様々な危機を想定し、主体的・組織的に動く教職員集団になるよう体制を整える必要がある。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・「トコトコネットワーク」への協力依頼や、学校の取組についての情報発信が弱い。「カフェトコトコ」の外部開放等を通じて、地域の学校への理解を促進し、地域とともに児童生徒を育てていく環境を整えていく必要がある。 ・教職員の働き方改革を進める必要がある。時間外在校時間の縮減に向け、各部、各分掌を中心に業務内容の精選を随時行い記録に残し、仕事の見える化、スリム化を図っていく。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1. 教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育システム」を活用して児童生徒一人ひとりの「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をより一層充実させ、児童生徒にとってより効果的な支援を行う。 <p>2. 安全・安心な学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の命と安全を守る学習や訓練を継続して行い、安全・安心な学校生活を保障する。
学校運営等	<p>1. 特別支援教育を牽引する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における特別支援学校としてのセンター的役割を果たす。 ・人権意識を高く持ち、地域と深くかかわる中で情報を発信する。 <p>2. 信頼される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンスの向上に努め、保護者、地域等との信頼関係を築く。 <p>3. 働きやすい職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営組織の中で全教職員が自分の役割を十分果たす。 ・教職員が意欲的に業務に取り組み、充実した毎日を過ごせるよう、情報共有する時間や環境を整備するとともに、効率よい会議運営を行うなど、働きやすい職場づくりを目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1. 教育活動の充実	<p>(1) 学校教育目標達成に向けて、学校全体で「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アセスメントシステムの運用の定着を目指す。 ○小学部・中学部・高等部の教員による小グループでの授業研究を行う。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①小グループでの授業研究 年間4回実施 ②アセスメントの反映方法の検証、授業研究の成果と課題の整理（年度末） <p>(2) 授業等においてICTを活用し、効果的な支援・指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活用事例をデスクネットで共有し、支援・指導に活かす。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①活用事例の共有 年間30例以上 ②活用事例集の作成（年度末） <p>(3) 総合的・客観的に児童生徒の教育的ニーズを把握して支援・指導に活かすための「アセスメントシステム」の定着を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アセスメントツールを利用した、児童生徒の総合的・客観的な教育的ニーズの把握を行う。 		◎

<p>2. 安全・安心な学校生活</p>	<p>【活動指標】</p> <p>① 「アセスメントシステム」の運用の定着</p> <p>② 「アセスメントシステム」の、「個別の教育システム」及び授業等への反映と活用、効果についての検証（年度末）</p> <p>（1）自分及び他者の命と存在を大切にし、それらを守るために自ら行動する力を養う学習を行う。</p> <p>○人権教育カリキュラムに基づいた学習を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① ピンクシャツデーのメッセージ参加 230人以上</p> <p>② 性に関する学習の実施 各学部1回以上</p> <p>（2）危機発生時等における児童生徒の命と安全を守るための学習及び訓練を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 地震・火災等の避難訓練の実施 4回</p> <p>② 災害伝言ダイヤル体験活用度 各回60%以上</p> <p>③ 交通安全に関する講習の実施 各学部年間1回以上</p> <p>④ 教職員対象の救急救命講習の実施 1回</p>		
改善課題			

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>1. 特別支援教育を牽引する役割</p>	<p>（1）地域支援として巡回相談、電話相談、体験研修、夏季講座等を実施するとともに、小・中・高等学校の教員がより相談しやすく、個々のケースに対応した支援を行うことが可能な相談形態を定着させる。</p> <p>【活動指標】</p> <p>① 「あゆみなんでも相談会」の実施</p> <p>（2）地域において本校の教育活動への理解と協力を仰ぎ、地域の中で児童生徒が豊かに生きるための支援につなげる。</p> <p>○「トコトコネットワーク」の加入募集を行う。</p> <p>○地域での作品展示を行う。</p>		

<p>2. 信頼される学校</p>	<p>【成果指標】 ① 「トコトコネットワーク」新規加入 個人5件以上、企業等団体3組織以上</p> <p>【活動指標】 ①百五銀行、JR多気駅での作品展示</p> <p>(1) 児童生徒、保護者、関係機関、地域の人々等との信頼関係を築き、児童生徒へのよりよい支援につなげる。</p> <p>○教職員意識調査「あゆみチェック」の結果を教職員全員で共有し、課題について検討し改善を図る。 ○学校の取組について、ホームページや報道提供により情報発信する。</p> <p>【成果指標】 ①「あゆみチェック」の結果においてコンプライアンスを常に意識している教職員の割合 100% ②コンプライアンスミーティングの実施 年2回 ③ホームページの更新 年12回以上 報道提供 3回以上</p>		<p>◎</p> <p>※</p>
<p>3. 働きやすい職場づくり</p>	<p>(1) 教職員一人一人が健康で、充実感をもちながら教育活動を行うことができる環境をつくる。</p> <p>【活動指標】 ① 設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上 ② 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上</p> <p>【成果指標】 ①時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ② 時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ③ 1人当たりの月平均時間外在校等時間 10時間以下 ④ 1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上</p>		<p>※</p>

改善課題

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	
-----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	
学校運営につ いての改善策	